

# 農業ワークショップ開催報告

（出席者） 農業従事者（みのかもファーマーズ）、めぐみの農業協同組合、岐阜県（可茂農林事務所）：10名  
事務局：4名（総合戦略室、農林課）  
ファシリテーター：1名（ジャパン総研）

## 1 次第

- 19:00 ~ 開会あいさつ、趣旨説明  
19:10 グループワーク  
『美濃加茂市の果樹農業の「今」と「未来」をみつめよう』  
美濃加茂市の果樹農業における、強み(S)・弱み(W)と外的環境に潜む機会(O)、脅威(T)を整理する。  
20:15 各グループの成果発表  
20:30 閉会あいさつ

## 2 開催結果

### （1）グループワークの発表

#### 【Aグループ】

Aグループで整理した「強み」は、美濃加茂市といたら「梨」であり、直売ならではの品質の高さは、代々引き継がれて歴史がある。そのため顧客やファンがいる。

その反面、「弱み」として、担い手の高齢化や担い手不足の問題などもあり、農家の意思統一が難しい。個々が強いとも言える。組合として担い手を育成していく力が弱い。行政からの支援もなく、若手も新規参入しづらいということがあげられる。



「脅威」としては、梨の皮をむく手間などが敬遠され消費者が減っていることがあげられた。

全体的にみると、強みはあっても弱みが目立ってしまい、「弱み」が「脅威」になってしまうと思った。今後は、組織でPRを上手にし、担い手を育成し、生産量を増やして、歴史を守っていけるようにしていくことが大事なのではないかという意見であった。



## 【Bグループ】

Bグループでは、「強み」としてブランドがあることや、交通の便がいいという意見があった。「弱み」は、高齢化や担い手不足という意見であった。最終的に、「脅威」を「強み」に変えられたら一番いいのではないかという話になった。

山之上には梨しかない。梨以外に何かあれば、お客さんをひっぱって「強み」になるのではないかといった意見もあった。最近の消費者が好む傾向にあるカットフルーツなどは、山之上の売り方とは違う。そのあたりを何とか考えれば「強み」になるのではないかという話になった。

また、ここでは農水が使いやすいので「強み」に入れた。しかし、だいぶ古いため壊れたら「弱み」になってしまう。



(2) グループワークの結果

【Aグループ】

	強み (S)	弱み (W)
<b>内部環境</b>	<p>まとまった産地</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>100以上の果樹農家が集まって直売所が並んでいる。岐阜県で最大の梨園</li> <li>県内一の梨の産地</li> <li>果樹園が集まり、産地となっている</li> <li>おいしい梨の産地として県内で知られている</li> </ul> <p>⇕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>直売で品質が良い</li> </ul> <p>ブランド力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>山之上の梨。蜂屋柿+加工品ブランド</li> <li>堂上蜂屋柿は全国的にも有名である</li> <li>蜂屋柿は高級なイメージがある</li> </ul> <p>直売ならではの“味”</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>産直、直売、市場、出荷とさまざまな販売方法がある</li> <li>各生産農家が店を開いており、販売力がある</li> </ul> <p>⇕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ファンがいる</li> </ul> <p>技術力あり！ 立地</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生産農家（やる気のある）は非常に技術が高く、おいしい梨や柿がたくさん採れる</li> </ul> <p>↑</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>歴史がある（産地として）</li> <li>赤土で良質な土地である</li> <li>中京圏の大消費地から比較的近い</li> </ul>	<p>担い手不足 高齢化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>高齢化</li> <li>高齢化が進み、後継者不足</li> <li>生産者の高齢化</li> <li>後継者不足</li> <li>高齢の方が多く、後継ぎがいない。高齢者と兼業農家が多いので、手入れが十分されていない</li> <li>手間をかけていられない農家が増え、品質が低下</li> </ul> <p>↑</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>手間がかかる。儲からない。面積が小さいバラバラ</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>県内トップの産地でありながら、全国的な知名度は高くない</li> <li>それぞれが独立してまとまりがない。組合が機能していない</li> <li>耕作放棄地が増えている</li> </ul> <p>資源はあるのに…</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>PRがへた</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>新規参入するための制度がうまく使われていない</li> <li>土地の確保（農地）難しい</li> <li>行政からの支援。農家との連携</li> </ul> <p>↑</p> <p>組織の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>農家さん皆の意思統一が難しい</li> </ul>
	機会 (O)	脅威 (T)
<b>外部環境</b>	<p>利便性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>高速が近い</li> </ul> <p>隣接する観光地</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日本昭和村があり、お客さんが訪れる</li> </ul> <p>担い手育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>農地をもっと利用する</li> </ul>	<p>気候</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>温暖化</li> <li>台風が増え、高温の日も増えている</li> <li>害虫が増えている</li> <li>赤星病（庭木）</li> </ul> <p>消費者</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>お客さんが果実を食べなくなっている。贈答品が中心になるが、贈答の機会が減っている</li> <li>包丁を使う果物は手間がかかり敬遠されつつある</li> </ul>

【Bグループ】

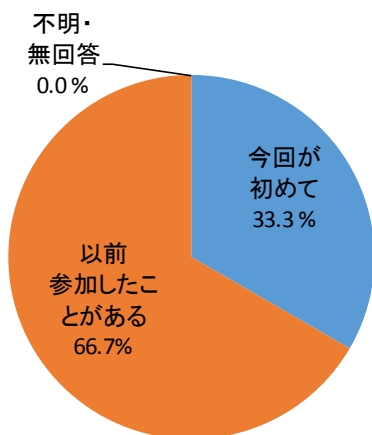
	強み (S)	弱み (W)
内部環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 蜂屋柿との連携がない</li> </ul> ブランド力 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 直売中心で販売価格は比較的安定 (すべてではないが)</li> <li>・ 「山之上の梨」というブランド。知名度</li> <li>・ 観光農園</li> <li>・ 観光農園への関心</li> <li>・ 赤土おいしい</li> </ul> 柿、梨、栗→県三位           地理 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ R41 に近い中部圏の客。車</li> <li>・ 交通の要所。工業団地</li> <li>・ 日本の真ん中に位置し、関東にも関西にも近い</li> <li>・ 遠方からのお客さんが多い</li> </ul> 農水 歴史(古い) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歴史のある産地</li> <li>・ 農水が使いやすい</li> </ul>	高齢化 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高齢化。担い手も不足。リーダー不在</li> <li>・ 生産者は二極化。大規模、後継者ありと小規模、後継者なし</li> <li>・ 農家の高齢化と後継者不足</li> <li>・ 担い手減少</li> <li>・ 果樹就農は難しい</li> </ul> 組合の存在 (負のイメージ)           外部 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 外部の人材を受け入れない。また、入る手段もない</li> </ul> 園地流動化が進まない。廃園の増加 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 害虫が多い</li> <li>・ カラスが多い</li> </ul>
	機会 (O)	脅威 (T)
外部環境	暑いときは梨が食べたいくなる！           販売力 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国産志向が強くなっている</li> <li>・ インターネットによる販売が普及</li> <li>・ 直売所、大型スーパーが増えている</li> </ul>	消費 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 贈答品の減少</li> <li>・ 手軽なコンビニスイーツに消費者が移行している</li> <li>・ 梨、しかない。桃やブドウは？</li> </ul> ↓           複数品目           開発 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人口増加策による農地の開発。農業環境の悪化</li> </ul> 知名度 → 看板設置 R41 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 美濃加茂市 (岐阜県) の知名度が低い</li> <li>・ 国からの支援が少ない</li> </ul>



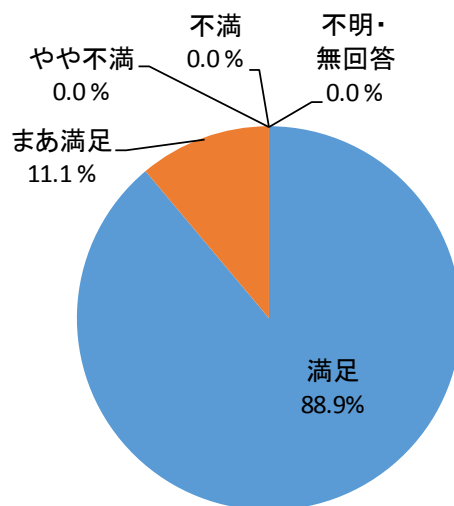
### 3 参加者の意見・感想

振り返りシートの提出数：9名

【ワークショップの参加経験はありますか】



【本日のワークショップはいかがでしたか】



#### 【具体的な感想など】

- ・果樹について皆さんからいろいろな意見が聞けて良かった
- ・予想より活発で真剣な意見が出ていた
- ・あっという間に時間が過ぎた。いろいろな意見が出ておもしろかった
- ・自分が栽培する作目とは違ったが、十分自分の身になる話し合いができた
- ・若手中心であり、積極的な意見が多かったのと、専門的な意見もあり、活発な意見交換ができた
- ・頭の回転が悪くて話についていけなかった
- ・皆の思っていることが図になるとわかりやすかった
- ・「山之上の梨」を客観的に分析できた（なかなかこのような機会はない）
- ・テーマに対して、皆が熱く語り合えた

#### 【本日のテーマについて、言い足りなかったことや、追加意見】

- ・美濃加茂市にカイヅカイブキ禁止条例をつくってほしい（赤星病）
- ・果樹と言っても山之上、蜂屋柿、栗と幅広い生産者がいる。ターゲットを絞るべきか、連携強化か悩ましい
- ・JAとして、どう地域を守っていくべきか参考になった部分もあり、こういう機会が増えれば良いと感じた
- ・山之上の果樹に目を向けていただけたのは有難いですが、個人的には山之上は落ちていくと思っている。少し手遅れかも…（山之上をもとの大産地に戻すのはすごく難しいかも）
- ・次回はイチゴや他の品目でもやってみたい
- ・言いつくした
- ・言い切った

### 【総合戦略全般について】

- ・ 果実組合員の意見を聞いてみたい
- ・ 若い生産者がやる気をもてるような政策を。人が入りやすいような
- ・ 自分を含めて、やる気のある農家は大勢いるので、今回のような行政との連携の輪を広げていけばいいと思った
- ・ こういう取り組みが地域の住民も巻き込んでもできるような環境づくりも大切ではないのかと思う（人、農地プラン含む）
- ・ 農業がしやすい市政をお願いする
- ・ 新規就農とは、やりたい人を創り出し、支援し、守ること。まずは、「農業をやってみたい」という気持ちにさせないと何も始まらない。「美濃加茂で」となると、もっとハードルが高くなる
- ・ こういった機会を増やしてほしい